

金津コミュニティ振興協議会創立 15周年を迎えて

金津コミュニティ振興協議会
会 長 齋 藤 一 郎



金津コミュニティ振興協議会は平成16年（2004年）に創立され、今年度15周年になります。創立時に於いて、先輩諸氏の並々ならぬ努力のおかげで今日に至っております。

当時の世相と今日では大きく変化しております。私達役員は、コミ協の進むべき方向は将来を見据えた適格な判断を求められていると考え、様々な企画を通し防災・防犯あるいは健康維持、友達作り、皆んなで楽しめる場作り等開催し、結果として地域の安全・安心、楽しい地域作りに努力しているところです。今後とも地域の皆様のご支援・ご協力をお願い申し上げます。

金津コミ協の設立経過

- 旧新津市当時、金津地区では、地域の課題を話し合う『協議会』において地域コミュニティの立上げについて検討が行われていましたが、新津市との協議は具体的に進む状況ではありませんでした。
- 平成15年になると新潟市との合併が浮上してきて、分権型政令指定都市への移行を目指す新潟市がコミュニティ組織づくりの強化に取り組むこととしていたこともあり、コミュニティ構想を合併後の新潟市に持ち込み実現するという方向性が見えてきました。
- こうした動きの中で、コミュニティセンターが出来たらそれを管理運営する組織が必要とのことから、平成16年4月1日にコミュニティ振興協議会の会則を制定し、役員体制を整え、金津コミ協が発足しました。また、この年にコミュニティセンターの起工式を行い、施設の建設にも着手しました。
- 平成17年3月23日、新津市は新潟市と合併し、4月15日、改めて「金津コミュニティ振興協議会」（略称：金津コミ協）の創立総会を開催し、この場で会則や役員人事、平成17年度の事業計画を決定し、正式にコミ協がスタートしました。また、7月23日には「金津地区コミュニティセンター」（略称：金津コミセン）の竣工式を行い、コミ協活動の拠点が完成しました。

金津コミ協 15年の軌跡

平成16年度

●コミ協設立、コミセンの建設に着手

コミュニティセンターの建設に向けその運営主体としてのコミュニティ組織として「金津コミュニティ振興協議会」（略称：金津コミ協）が設立されました。また、コミュニティセンターの起工式が行われその建設に着手しました。

平成17年度

●コミ協がスタート

3月23日に新津市が新潟市と合併。これを機に、4月15日に改めて「金津コミュニティ振興協議会」の創立総会を開催。会則や役員人事、平成17年度の事業等が提案・承認され、旧公民館分館の事業や活動を引き継ぐ形で金津コミ協が正式にスタートしました。

●コミセン竣工

7月23日、金津地区コミュニティセンター(略称:金津コミセン)の竣工式が開催され、旧新津市内では3番目のコミュニティセンターとして稼働しました。



完成したコミュニティセンター

●「地区敬老会」など多くのイベントを開催

金津コミ協が新しく始めた事業の一つとして第1回「地区敬老会」が開催されました。このほか、地区運動会やバレーボール大会、文化祭、囲碁将棋大会などが開催され、以後、毎年多くの参加者を得て開催されています。



毎年多くの人が参加している
敬老会

平成18年度

●学社融合事業の取組み

金津中学校の「総合学習」と連携した講座制総合学事業に取組み、4月から12月まで毎週1回のスケジュールで実施されました。平成19年11月、この様子が「新潟県ふるさとづくり秋葉区大会」で当時の斎藤ノブ子女性部長から報告され、また、新潟日報にも掲載されました。



総合学習で郷土料理を学ぶ

平成19年度

●コミ協のシンボルマーク決定

シンボルマークの公募に対し、応募者14名、応募作品18点の中から、石沢英夫氏(割町)の作品をコミ協のシンボルマークに決定しました。



平成20年度

●『会報かなづ』毎月発行に

コミ協創立以来年2~3回程度の発行だった『会報かなづ』が毎月発行になりました。

●「ふるさと塾」を開講

懸案だった「ふるさと塾」を開講しました。平成20年度は5回の講座を開催、以後毎年継続的に開催されています。

平成23年度

●「金津地区社会福祉協議会」設立

「金津地区社会福祉協議会」を設立しました。当初はコミ協の専門委員会としての位置付けでしたが、平成25年度にはコミ協の下に独立した組織として位置づけられ現在に至っています。

平成26年度

●福祉アンケートを実施

地域課題としての少子高齢化に伴う福祉について全戸アンケートを行い、課題の把握と取組みの方向を検討しました。

●「金津地区散策マップ」を作成

地域のことを知ってもらい、地域活性化のツールとして活用するために「金津地区散策マップ」を作成しました。

- コミ協10周年記念としてコミセン構内に桜を植樹
- 『会報かなづ』10周年記念特集号発行

平成27年度

● 監視カメラの設置、「見守り活動」を開始

コミ協活動の重点が「地域課題の把握と解決」に移行していく中で、環境保全対策として不法投棄防止のため監視カメラを設置しました。また、地区社協が高齢者対策としての「見守り活動」（あい愛訪問活動）を開始しました。

平成28年度

● 地域散策ツアーガイド養成講座を開催、郷土誌懇話会を立上げ

地域を知り、地域に誇りをもって住み続けることを目指し、多くの人に金津を紹介できる体制づくりのため「地域散策ツアーガイド養成講座」を開催し、また、郷土の知識を一層深められるよう「郷土誌懇話会」を立上げました。

平成30年度

● 合同防災訓練を実施、「見守り隊」発足

コミ協主催による地域消防団と古津・蒲ヶ沢両自治会との合同防災訓練を実施しました。また、11月にはコミ協として「見守り隊」を発足、活動をスタートしました。



金津コミ協の活動

コミ協の目的と活動・専門部会

- 金津コミ協の創立総会で決定した「金津コミュニティ振興協議会会則」の第2条では会の目的を次のように定めています。
- また、この目的を達成するために行う活動については、第3条で、①会員の融和・協調に関すること ②文化・芸能・学習等に関すること ③社会福祉及びボランティアの普及に関すること ④スポーツ・保健・衛生に関すること ⑤生活改善に関すること ⑥女性・青少年に関すること ⑦住みよいまちづくりに関すること ⑧自然と観光施設の保全に関すること、などを定めています。
- そして、これらの事業を推進するために、総務部、文化教養部、保健体育部、福祉厚生部、生活環境部、女性部の6つの専門部会及び地区社協が設けられています。
- 各部会及び地区社協は会則第3条で定める活動を分担して行っています。全体的な活動の重点は、コミ協スタート時のイベント中心の活動から、地域の安全を守る活動や防災、高齢者対策などより地域の課題に即した活動へ変化してきています。

金津コミュニティ振興協議会会則

第2条 この会は、地域のコミュニティ活動を振興し、先人の努力による歴史や文化・伝統を大切に、自然を愛し、笑顔でふれあい、健康で文化が香る快適で安全な地域社会を目指すことを目的とする。

各部会の活動の様子

- **総務部**は、「会報かなづ」の発行、地域散策ツアーガイドの育成、郷土芸能の保存等の活動を行っています。



ガイド養成講座の様子



伝統芸能の保存で
程島の神楽舞を撮る

●**文化教養部**は、「ふるさと塾」を開催し郷土の歴史、文化、伝承等を学ぶとともに、文化祭作品展や「金津ミュージックフェスティバル」「ニューイヤーコンサート」を実施しています。



ミュージックフェスティバルの様子



ふるさと塾で河井継之助記念館へ

●**保健体育部**は、地区運動会、ニュースポーツ大会、卓球大会などスポーツを通じた健康づくりや地域住民の融和を進める活動を行っています。



毎年盛大に行われている地区運動会



ニュースポーツ大会での「ふらパールバレー」

●**福祉厚生部**は、健康や福祉に関する講座として「楽々ふれあい講座」を行い多くの方の参加を得ています。また、コミセンのスタート時から継続して行っている「地区敬老会」にも毎年多くの方が参加しています。



多くの方が参加している地区敬老会



楽々ふれあい講座で落語を聞く

●**生活環境部**は、金津地区の生活環境の向上と安全に過ごせる地域づくりを目指した活動を行っています。



県道白根・五泉線に監視カメラを設置



ゴミ減量のため不法投棄パトロール

●**女性部**は、多くの女性同士の交流の場を設け、地域の豊かな人材や土地柄を生かした講座等を開設し、地域との連携を深める活動を行っています。



地域料理を学ぶ一環としてのちまき作り



草木染めの様子

●**地区社協**は、毎月1回開催している「地域の茶の間」のほか、高齢者の見守り活動（あい愛訪問活動）や認知症に対する取組みなど、地域の課題に即した活動を行っています。



毎月開催されている地域の茶の間



地域の茶の間でござ歌を聞く

令和元年8月1日現在の役員



左より 副会長 今井富夫
 " 渡邊満男
 " 青木貞義
 会 計 植木隆雄
 (会長は前掲)

発行者 金津コミュニティ振興協議会
 会 長 齋藤 一 郎
 住 所 新潟市秋葉区古津597
 電 話 0250-25-1101